

 <h1>宗岡二小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子</p>	志木市立宗岡第二小学校
	令和4年度 No.3
	令和4年6月1日
	志木市上宗岡3丁目13番1号
	TEL 048 - 473 - 2305
	児童数6月1日現在387名



昨今の給食事情は？ 食育の問題を考える

可知良之

当たり前のことが当たり前に行えることは実に幸せなことです。コロナ禍が続く今日本中の誰もがそのことを実感していることだと思います。コロナ禍での給食は子どもたちにとって、ようやく以前のような当たり前の姿に戻りつつありますが、ある日突然提供できなくなってしまったら・・・6月は全国食育月間ですので、今日は昨今の給食事情について考えてみたいと思います。

学校の先生は給食を何分くらいで食べているのでしょうか。正式に調査したことはありませんが個人的に聞き取りを行ってみると、長い人でも15分程度、短い方だと5分以下、平均すると10分未満といったところですね。なぜこんなに短いのかという理由があります。給食は学校で行う食育の中心とされていますので、給食時間は準備から片付けまで含めて授業と同じ45分程度に設定している学校がほとんどです。授業と同じですので、指導者である担任は子どもたちの安全を配慮しながら常に指導を行っていく必要があります。その最中に自分も一緒に給食を食べるわけですので、なるべく短時間で済ませる癖が身についてしまうのです。いわゆる一般企業における休憩時間の昼食とは異なりますので、食事中といえども気が抜けません。以前、小学校高学年児童が食事中にパンを喉に詰

まらせ死亡するといった不幸な出来事があり、先生が監督責任を問われた事案がありました。高学年だから安心ということは決してありません。低学年ではうまく箸が使えず、こぼして泣いている、中学年ではおかわりのことで喧嘩が始まる、このようなことは実は日常茶飯事です。こうした対応に苦慮し、中には昼食は一切食べないという先生もいました。何のための食育なのか疑問に思います。

今、フードロスの問題が世界中で取り上げられていますが、給食にもこの問題が大きく関係しています。昔昭和の時代には日本はまだ豊かではありませんでしたので食事で残すことは悪でした。ですから給食を残すことに対してとても厳しい先生が多かったと思います。今はこうした強い指導は行っていませんが、フードロス問題に対する食育としては大手を振って残しなさいとも言にくいところがあります。残さないように上手に盛り付けをして協力して残量を少なくしている先生がほとんどですが、一方では食わず嫌いな児童に何でも食べられるようにすることも大事な食育です。日々ジレンマにさいなまれつつ年間180回の食育を進めています。

1回300円程度の教材費を使った食育授業、さて、今日のメニューは何だったでしょうか。お子さんに聞いてみてください。